

活動の記録

1月31日(日) 晴 臨時活動

シカの食害による島内絶滅危惧種の保護センター(*)の準備のため、及川、伊藤の2名で、島に入り作業をしました。3月に植栽を予定しているアオキは、豊英島の中でシカの食害からかろうじて残ったアオキを及川さんが挿し木で増やした苗で、豊英島のアオキの今後を実践的に考えるうえで貴重なものです。そのため絶滅危惧種の保護はシカのみならず、ウサギ対策も考慮してかなりしっかりしたものとしました。

*保護センターの意味合いや活動の詳細は3月の植栽後のレポートをお読みください。(伊藤)

2月21日(日) 快晴

21日は真冬とは思えぬ温かさとなり、防寒着無しで快適に活動できました。

集合場所の里のめぐみ館には早めに着いたので、近くの三島ダムで鳥を探しながら時間待ちをしていると、藪からウグイスの初鳴きが聞こえましたが、まだ練習中らしく私の採点では60点の出来でした。3月になれば合格点になるでしょう。

千年広場では、先般お亡くなりになった根本さんを偲んで、縁の深かったベテラン会員から思い出話を伺った後、遺作となった立体地図付きの看板に向かって黙祷しました。会の為に多大な貢献をして下さった根本さんのご冥福を祈ります。合掌



また今回は幕張で中田さん家族と共に活動している山口さん親子も来てくれました。活発な男の子の行動を微笑みながら目で追っている皆さんの表情が印象的でした。さながら森のアイドル、森の王子様でした。

参加会員は秋元、新井通子、伊藤、鶴沢、及川、大原、久我夫妻、坂本、中田真也子、中田智貴、成沢、福島、村野の14人と中田さん友人の山口さん一家4人(山口和代、航生、溪太、権史)の総勢18人で賑やかでした。(坂本)

○相対照度調査

春の陽気の中、多くの参加者の協力をいただいて相対照度調査を行いました。天気は晴れで日差しの中での調査となりましたが、直達光を避けながら測定を行いました。相対照度の測定には、照度計8台、トランシーバ4台を使用し、調査人員は11名でした。測定箇所は、コナラ伐採地の20地点(A-1~D-5)と、千年広場、コナラ更新林の苗畑とヒメコマツ植栽地、岬のヒメコマツ植栽地の計24地点です。相対照度は、開けた場所(橋の上)の照度を100%とした時の、各地点の照度の比率(%)です。各地点で同時に測定するために、トランシーバで連絡を取り合いながら測定を行いました。なお、相対照度はバラツキが大きいため、今回は各地点で4回の測定を行い、4回の平均値を相対照度としました。



照度調査開始前の打ち合わせ

表1にコナラ伐採地における各測定点の相対照度を、表2にコナラ伐採地（20地点の平均値）を含めた全測定箇所の相対照度の変化を示しました。コナラ伐採地の相対照度は、最大が95.1%、最小が65.2%、平均が78.0%でした。測定点ごとに見ると、Aの列（北西側）と、4、5の列（北東側）がやや高い傾向にありました。これは、北側が立木の影の影響が少ないことによるものと考えられます。また、表2の経年変化を見ると、岬のヒメコマツを除き相対照度はやや高い傾向にありました。これは、2019年の台風で発生した高木層の幹折れ、枝折れにより、林床が明るくなったことを示している可能性があります。相対照度の変化とともに、今後の林床植生の変化にも注意していきたいと思います。（福島）

表1 コナラ伐採地の相対照度（%）（2021.2.21）

	1	2	3	4	5
A	71.3	84.8	77.1	85.3	95.1
B	72.4	76.3	81.4	75.1	75.6
C	65.2	76.5	82.3	89.5	75.2
D	67.6	71.2	75.1	83.4	79.4

表2 島内5地点の落葉期の相対照度の変化

測定箇所	相対照度（%）						
	落葉期	落葉期	落葉期	落葉期	落葉期	落葉期	落葉期
	2014.2.23	2015.2.15	2016.2.13	2017.2.19	2018.2.18	2019.2.19	2021.2.21
千年広場中央	63.9	71.5	60.3	52.4	38.5	42.4	46.5
コナラ更新林の苗畑	56.7	67.6	63.6	52.1	38.5	56.4	52.5
コナラ更新林ヒメコマツ	77.3	76.6	73.5	65.4	48.2		73.4
岬ヒメコマツ	44.4	66.9	65.3	70.8	68.8	44.0	38.0
コナラ伐採地	71.9	82.2	73.1	65.0	65.8	62.4	78.0

コナラ伐採地は、2015年2月以降20地点の平均値
2020年2月は調査を行わなかった

〇コナラ伐採地の刈り出し(その2)

2014年に伐採したコナラ林（通称ギャップ林）については、半分を草地として管理し、もう半分を「刈り出し」によって多様な樹種からなる森として再生するため、1月から刈り出し作業に着手しました。（詳細はNO210のその1を参照）

残存木はすべて印がついているので、それ以外を伐採するのですが、アカメガシワやカラスザンショウなど先駆樹種は、5メートル程度まで大きくなっていますが、その他はヤブ状を呈して本数も多く、間違いそうで神経を使いました。また、伐採したものを引き出すのにもかなり時間がかかり、来月に仕上げを残して終了となりました。

冬場向きの作業だな思いましたが、落葉時期で樹木名がすぐ判らないことから、伐採をためらうシーンも見られました。もうひと頑張りですが、だいぶ仕上がってきて見違える景観になりつつあります。（伊藤）

・なかなか大変な作業でしたが、勉強になりました。

刈り出した場所は色々な種類の木が絡み合っていて凄かったです。これは自然の森に出来たギャップ（森の隙間）での生存競争の様子なのかと思いました。

その中で背が低いのに元気な常緑の樫（アラカシだったでしょうか？）が何本かありました。上空での落葉樹同士の激しいバトルをしり目に、青々とした葉をつけて元気いっぱい。自然界ではきっとこの樫はジワジワと成長し、数十年後、他の木を抜き去り大木となり常緑の森をつくるのでしょう。

木それぞれの戦略のちがいが見られた気がして面白かったです。（中田真也子）



・植物の再生の早さに驚いています。2年前まではほとんど腰の高さぐらいだったものが大きいものは、見上げる程の高さになり太さは手首程度にもなっています。全伐からの5年間は多年草が目立っていたようですが、7年目の今年は木の成長が著しいようです。多年草からハギやヤマブキをはじめとする低木、低木からコナラやイタヤカエデの中高木への変遷がみられることを期待し、成長を見守っていきたいと思います。ちなみに、刈り出しのために残す木を1.8m間隔で選定し30本ほどに目印をつけましたが今では40数本に印がついています。いったん刈り出しが終了した後に、見直しが必要な気がします。(秋元)

オスハマソウとコショウノキ

両種とも例年に無く良く咲いていると聞いたので昼食後に希望者が連れ立って見に行きました。台風で高木の枝が多数折れた結果、樹冠に空間が出来て光線量が増え、林床植物にとっては生育環境が良くなっているものと思います。樹木の実生も目立ちます。(坂本)



スハマソウ



スリリングなスハマソウ撮影



久しぶりに姿を見せた薄紫のスハマソウ



コショウノキ



コショウノキ撮影会



アセビ



オニシバリ



紫色のオニシバリ探し



紫色のオニシバリ



オケラ



ナガバノコウヤボウキ



ヤマトツジ



カヤ冬芽

○オシドリがいました！

春の温かい日差しを受け、一人島の北側をめぐるしました。この時期見逃せないのがスハマソウです。吊橋を渡ってすぐに左に折れ、吊橋をくぐって西に向かいました。50mほど行ったところで、対岸のがけ下に一組の番のオシドリがいました。入会して5年、念願のオシドリを見ることができ感激しました。釣り船が西側から来たため5分ほどで飛び去りましたが何とか写真に収めることができました。さらに進むと岸辺に一塊に見えるほどにスハマソウが一斉に咲き誇っていました。20輪ほどは咲いていたようです。最西端の禁断の岬付近のがけ下の岸辺には、ヒメフタバラン2株に蕾がついていました。その他にアオキの蕾もありました。花が満開となっていたものは、オニシバリ、ヤブツバキがありました。（秋元）



オシドリ

○ホテイ竹林の整備



整備前

— 昨年の台風以来、島内の通路はどうか確保されていますが、散乱している落ち枝の片付けはまだまだ続けなければなりません。ホテイ竹林の保護柵の中も同様で、倒れた竹と落ち枝が折り重なって足の踏み場も無い状況ですから何とかしなければなりません。



整備後

柵の外を一周して中を覗きながら作戦を考えましたが、枯れた竹を全部柵の外に出すのは無理なので、柵の中で細かく切って積み上げるしかないと思いました。

先ずは積み上げる場所を確保する為、枯れた竹を移動してから空けたスペースに1mほどの長さに切った竹を枝ごと積み上げました。そのままでは嵩張るので重しとして同じ長さに切った樹木の落ち枝を載せ全体を沈めてから、再度竹を載せ、嵩張ると重しを載せるのを繰り返しました。竹と樹木のサンドイッチをつくる感覚です。約1時間の作業で30m四方程度が片付きました。地道な作業ですが、千年の森をつくるつもりで続ければ何時かは終わりが見えるでしょう。（坂本）

○センサーカメラ撮影記録（1月18日から2月21日まで）

1回目の撮影結果から、静止画像の解像度と動画の撮影時間を変えることにしました。静止画は3MPixelを8MPixelに、撮影時間は10秒を20秒にしました。また、設置場所についてはCAM2の設置高さが高すぎたようです。カメラの下を通過するニホンジカの頭部が映っていました。高さを下げるため近くの径15cmほどの木に変え、1.8mから0.7m程度に下げました。

撮影結果はCAM1でニホンジカ：1回、キジバト：1回、アライグマ：1回、不明種A：9回、不明種B：6回、CAM2でニホンジカ：5回となりました。（秋元）

○Youtubeチャンネルを開設しました。

センサーカメラの更新に伴い動画が撮影できるようになりました。豊英島で確認された動物の動画をご覧ください。Youtubeで「ちば千年の森をつくる会」と検索してみてください。（福島）

千年の森活動に参加して



トビ

カワラヒワ

カブトムシの住処に落葉足し

今回の活動では、カブトムシの幼虫が住む腐葉土への落ち葉足し、鳥の観察、刈り出し、クロモジの爪楊枝作りを主にやりました。落ち葉足しは、山口家の三人とやりました。土の中を確認したところカブトムシの幼虫は、三匹ほど見つかりました。今年は例年より落ち葉の量が少ないようで、台風で飛ばされた可能性が高いそうです。落ち葉は四人で、ほうきや台車を使い、40～50センチほど元からあった腐葉土の上に置きました。今年の夏もカブトムシが観察できるといいと思います。

次に、鳥の観察では、橋の上とホテイ岬から観察しました。橋の上からは、いつもいるトビとカワラヒワが確認できました。ホテイ岬では、対岸の方に、ホシハジロと、キンクロハジロの十数羽のむれがいましたが、それ以外は、確認することができませんでした。

刈り出しでは、刈ってもいい木をきり、成長させたい木に日光が当たるようにしました。のこぎりで、細い木を切り出しました。木が細かったので、すぐ切れましたが、久しぶりにのこぎりを使ったので、結構疲れました。また、低い木の低い部分を切るため、腰が痛くなりましたが、刈り出しが終わった後は、刈る前よりすごくすっきりとした見た目になったため、やりきった感がありました。

最後に、刈り出しの時に刈り出したクロモジで、爪楊枝作りをしました。ナタやナイフを使い、クロモジの直径1.5～2センチほどの枝を、4から6等分に縦に割り、その枝の先を削って尖らせ、最後に持ち手の太い方に好きな模様をつけました。なかなかうまくできませんでしたが、ナタやナイフの練習にはなったと思います。なかなか味のある出来栄えのものが、できたので、満足できました。

久しぶりに参加させてもらえて、楽しい体験ができました。ありがとうございました。（中田智貴）

千年の森活動に体験参加して

今回子供達3人と体験参加しました山口です。以前から中田さんや伊藤さん鶴沢さんからお話を伺っていて興味があり、昨日やっと参加することができました。

午前中は光の照度計測で、初めての計測でした。橋を渡って豊英島に入った時は、日差しが気持ちよくて明るいな～と思いましたが、それも管理されているからなんだなということが午後の刈り出しも含めてしてなんとなく実感しました。



小3の息子は、以前から森の仕事をやってみたいと言っていたので、一緒に竹を切ったり運んだりするのをやらせていただけたのはとてもうれしかったようです。4歳の息子も鹿の糞を見つけて喜んだり、会員の皆様にずっと相手してもらって嬉しそうでした。

長男も午後の刈り出しでは疲れたと言いながらもスッキリした表情でした。私は午後の刈り出しのあと、クロモジで楊枝作りにハマり、集中しながら匂いに癒される時間を過ごすことができました。

次回はブランコを楽しみにしていますので、今後も時間が合う日は是非参加させていただければと思います。（山口和代、航生、溪太、權史）

子供たちも高校生も森の活動を楽しみ

日曜日は君津市のダム湖に浮かぶ豊英島での「ちば千年の森をつくる会」に参加しました。緊急事態宣言中ですので、距離はとっての活動になりました。今回は高校生トモキと友だち家族とで参加しました。

照度調査や刈り出し、鳥観察など高校生&ブレ高校生も活躍してくれました。

一方でちびっ子たちもメンバーの方たちに上手に活動に参加させてもらって喜んでいました。森に響くちびっ子の笑い声を聞いて、高校生になったトモキが「俺らもあんなだったんだね。」とつぶやいていました。ほんの数年前まであんな風に家族全員でこの会に参加していたのがなつかしい・・・子供の成長は早いです。

今回は、この活動で高校生が林業体験や自然観察ができる場でもあることが分かって良かったです。（安全対策は十分にした上で）来年度はトモキは受験生ですが、たまにはヒロシと一緒に参加して、大学生として旅立つ前に色んなことを学んでほしいと思います。（中田真也子 Face Book 投稿一部転載）

お知らせ

〇次回活動日は3月21日（日）です。全体作業は、ニホンジカ個体数調査、ギャップ林の刈り出し作業（仕上げ）がメインです。房総半島中央部ならではの春を楽しむことができますので、ぜひご参加ください。

9時30分に清和自然休養村（直売所）集合です。ヘルメットをお忘れなく。

根本さんを偲ぶ

会員の根本喜代士さん（市原市）が、2月1日に亡くなりました。ここのところ胃がん体調が思わしくないとお聞きしていましたが、ご子息から家族葬で見送ったとの知らせが届きました。

根本さんは、久我さんの紹介で入会された古くからの会員で長らく幹事をしていただきましたが、ものづくりの才能豊かで、様々な場面で当会の活動を支えていただきました。「千年の森看板」には、島の標高がわかる立体模型がついており、テーブルを覆う屋根組は、大判のブルーシート1枚を広げると数分で屋根が完成する構造で、いずれも創意工夫に満ちた作品です。また定例活動日以外にも一人出動して、昼食用のテーブルや椅子の製作なども行い、環境整備班の活動を支えて頂きました。

いつも穏やかな笑顔で周りに接していたのが印象的です。これからも看板を見るたびに「寡黙でダンディ」だった根本さんの笑顔を思い出すことになると思います。

これからも、活動参加者の安全を笑顔で見守ってください。心からご冥福をお祈りいたします。（伊藤）



根本さんの遺作「千年の森」看板



活動開始前故根本さんに黙とう